

(16) ブロccoli
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項	
				黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	軟 腐 病	べ と 病	苗 立 枯 病 R	根 こ ぶ 病	花 蕾 腐 敗 病	菌 核 病				
アフェットフロアブル	ベンチオキサト	アミト	7									◎			
アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン	ストロピリン	11				◎					◎			
エトフィンフロアブル	エタホキサム	その他	22				◎								
オラクル顆粒水和剤	アミスプロム	その他	21							◎					
オリゼメート粒剤	プロパナゾール	その他	P02	◎											
オリゼメート顆粒水和剤	プロパナゾール	その他	P02	◎	◎										セルトレイ灌注
オロンディスウルトラSC	オキサチアピフロリン・マンジプロパミト	混合剤	49・45				◎								
カスミンボルドー カップーシン水和剤	カスカマイシン・塩基性塩化銅	混合剤	24・M01	◎											生育抑制や葉縁の黄白化等の薬害を生じるおそれがあるので、所定の希釈倍数を厳守すること。
カセット水和剤	オキリニック酸・カスカマイシン	混合剤	31・24	◎											
カンタスドライフロアブル	ボスカリト	アミト	7									◎			
キノンドー水和剤40	有機銅	有機銅	M01	◎	◎										
クプロシールド	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01			は	野	野				は			野：【野菜類登録】、は：【はなやさい類登録】花蕾に薬害を生じるおそれがあるので、花蕾形成期までに使用する。
コサイド3000	水酸化第二銅	無機殺菌	M01		野		野					◎			野：【野菜類登録】 炭酸カルシウム水和剤を加用する。
シグナムWDG	ピラクストロピン・ボスカリト	混合剤	11・7					は					は		は：【はなやさい類登録】
スターナ水和剤	オキリニック酸	その他	31		◎	◎									
ダコニール1000	TPN	その他	M05					◎		◎					
ドイツボルドーA	塩基性塩化銅	無機殺菌	M01				野	野							野：【野菜類登録】薬害を生じるおそれがあるので、高濃度（500倍）液の散布はさけること。
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	ベンゾイミダゾール	1									◎			
ナレート水和剤	オキリニック酸・有機銅	混合剤	31・M01			◎									
ネビジンSC	フルスファミト	土壌殺菌	36							◎					
ネビライト粉剤	フルスファミト	土壌殺菌	36							◎					
ネビリュウ	フルスファミト	土壌殺菌	36							◎					
バリダシン液剤5	バリタマイシン	抗生物質	U18	◎											
パレード20フロアブル	ピラジフルミト	その他	7									◎			
ピシロックフロアブル	ピカルブトキサ	その他	U17					◎							
フォリオゴールド	メタラキシルM・TPN	混合剤	4・M05					◎							
フロンサイドSC	フルアジナム	その他	29							◎					
フジドーLフロアブル	塩基性硫酸銅	有機銅	M01		◎										
ベジセイバー	ベンチオキサト・TPN	混合剤	7・M05				◎					◎			

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名								注 意 事 項			
				黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	軟 腐 病	べ と 病	苗 立 枯 病 R	根 こ ぶ 病	花 蕾 腐 敗 病	菌 核 病				
ベンレート水和剤	ベンゾミル	ベンゾイミダゾール	1									◎			
ホライズンドライフロアブル	シモキサニル・ファモキサトロン	混合剤	27・11				◎								
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	抗生物質	41								◎				
マスタピース水和剤	シュートモナス ロテシア	生物農薬	NC		◎	◎					◎				
ヨネポン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅	有機銅	M01	◎			◎								
ライメイフロアブル	アミスルフロム	その他	21				◎								
リゾレックス水和剤	トルクロホスメチル	有機リン	14					◎							
レーバスフロアブル	マンジプロパミト	アミト	40				◎								
Z ボ ル ド ー	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01	野	野	野	野				◎				野：【野菜類登録】，黒腐病はプロコリーで無人航空機利用登録もある

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

(16) ブロッコリー
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項	
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	萎 黄 病	根 こ ぶ 病						
ガ バ キ ス ア ミ ド 微 粒 剤	タ ツ メ ット	I:8F						◎						
キ ル パ ー	カ ー バ ム ナ ト リ ウ ム 塩	8F						◎						

(16) ブロッコリー
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ 病害虫防除法（ブロッコリー）

（ア）花蕾腐敗病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*, *Pseudomonas fluorescens*, *P. viridiflava*

（防除のねらい）

土壌中の病原細菌が雨水の飛沫により跳ね上がり、地上部に付着して花蕾を腐敗させる。温暖多雨の年に発生が多い。

（耕種的防除法）

- （１）発生しにくい品種を用いる。
- （２）カルシウム資材を施用する。こまめに追肥を行う。

（イ）黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*

（防除のねらい）

主に葉に発生するが、花蕾部にも発生し侵された部分は黒変して商品価値を低下させる。種子伝染、土壌伝染し、病原菌は葉縁の水孔部、傷口や害虫の食痕などから侵入する。キャベツ、ダイコンなどアブラナ科作物に広く発生するため、周辺に発病がある場合や発病した後作には注意する。

（耕種的防除法）

- （１）アブラナ科作物の連作を避け、被害茎葉の処分など、ほ場衛生に留意する。
- （２）健全な種子を使用し、土壌消毒の徹底および消毒後の菌の持ち込みに注意する。
- （３）育苗中や本ば初期の風水害対策を適切に行う。
- （４）ほ場の排水対策を徹底する。

（ウ）黒斑細菌病 *Pseudomonas syringae* pv. *maculicola*

（防除のねらい）

葉、茎、花に発生する。種子伝染、土壌伝染し、多くのアブラナ科作物に発生する。土壌消毒および種子消毒により、病原菌の汚染のない健全な環境を整え、病原菌の持ち込みの無いよう留意する。

（耕種的防除法）

ハクサイの項参照。

（エ）苗立枯病 *Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

高温時ほど発生が多く、土壌中の菌によって立枯れが起こる。育苗時には健全な床土を使用することと適正な水分管理が重要である。

（耕種的防除法）

- （１）病原菌は土壌中に残るので連作を避ける。
- （２）発病のおそれがある床土は使用しない。
- （３）排水に努める。
- （４）発病株は直ちに取り除く。

（オ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

（防除のねらい）

花蕾部に発生しやすく、発病したものは商品にならない。収穫後に発病する場合もある。傷口や黒腐病、害虫の食害や寒害などを受けたところに発生しやすい。多犯性で土壌伝染する。高温時ほど発生が多い。薬剤防除は予防防除に努める。

（耕種的防除法）

ハクサイの項参照。

（カ）べと病 *Peronospora parasitica*

（防除のねらい）

（耕種的防除法）

ハクサイの項参照

(キ) 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

}] ハクサイの項参照

(ク) 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

(防除のねらい)

春と秋に発生し、特に、気温が20℃前後で降雨が続く場合は多湿条件となり発生しやすい。土中の菌核が第1次伝染源となるので、ほ場内に菌核を増やさないことが大切である。また、好気性菌であり、空気の多い土壌の表層でしか生存しない。

(耕種的防除法)

- (1) 発病株は早めに取り除き、収穫後に残った茎葉も取り除く。
- (2) ほ場の排水を良好にする。
- (3) 発生地でのアブラナ科植物の連作は避ける。
- (4) 水田裏作を利用すると夏季の湛水期間中に土中の菌核は死滅する。

(ケ) ネギアザミウマ

(防除のねらい)

キャベツの項参照。

(コ) アブラムシ類

(防除のねらい)

ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシが加害する。主に葉裏に寄生するため、薬剤散布ではムラのないように散布する。冬季でも発生が続くため、気温が高めに経過したときの発生に注意する。

(耕種的防除法)

育苗期間中や生育期間中に不織布、寒冷紗などで株全体を被覆することにより被害を防止できる。また、同時にコナガやアオムシの発生も防ぐことができる。

(サ) コナガ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

}] キャベツの項参照

(シ) ハイマダラノメイガ (シンクイムシ)

(防除のねらい)

薬剤散布は発芽期から生育初期に行い、苗床防除に重点を置く。また、夏季が高温少雨で残暑の厳しい年には多発するので注意する。

(ス) ネキリムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

}] ハクサイの項参照

(セ) ヨトウムシ (ヨトウガ)

(防除のねらい)

キャベツの項参照。

(ソ) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

ハクサイの項参照。

(タ) アオムシ (モンシロチョウ)

(防除のねらい)

キャベツの項参照。